

# 園だより(年少さくら組)

小田原市立下中幼稚園

令和3年9月30日

園庭にトンボが飛び始め、秋の虫の声も聞こえるようになりました。先日、散歩に出かけ夢中でバッタ捕りをしてきたさくら組。さわさわ〜と吹き抜けた風に「気持ちいい〜!!」と、思わず手を広げていました。秋風の心地よさ、そして、夏から秋へと季節が変わりつつあることを体で感じたようでした。

## 今月のクラスの様子



緊急事態宣言が発令されている中スタートした第2学期。形を変え、クラスで始業式を行い、改めて、感染症予防の大切さを確認しました。

今、さくら組では動物作りがブームとなっています。図鑑を見て「サイの色はグレーだよね」「パンダって牙もあるよ」「足は4本だね」「ツノは三角だね」「もうちょっと手が大きいかな…?」と、じっくりと図鑑を見て、色、形、大きさ、数などにも気付き特徴を捉えながら、それぞれ好きな動物を作っています。いろいろな動物ができ、これからどんな遊びへとつながっていくのか、とても楽しみです。



戸外遊びでは、友達と一緒に“変わり鬼”をし、体を動かして遊ぶことを楽しんでいます。「タッチされた人が鬼ね」「この場所に入ったらタッチされないことにしよう」など、ルールを伝え合い遊んでいます。最初はそれぞれのルールで遊んでいたため、なかなか遊びが成り立ちませんでしたが、繰り返し遊びながら、ルールを守ったり共有したりする必要性を感じたようです。

砂が増えた砂場に夢中で、大きな山に登ったり車を走らせたりして遊ぶ姿も見られています。「これ、こうしよう!」「ここ掘っていい?」など、遊びの中で必要な言葉に気付き、自分で伝えながら遊ぶことができるようになってきました。



バッタ、トンボ、カエルなど、園庭で見つけたいろいろな生き物や、友達が持ってきてくれたカマキリやコウモリガを、興味関心をもってじっくりと観察しながら、友達と感じたことを伝え合っています。ある日、カエルを捕まえた男の子。図鑑を見て「砂を入れない!」と、カエルが住みやすいように家作りを始めました。そのうち、畑に行き何かを一生懸命探し始めました。どうやら、図鑑でカエルに肉を食べさせているところを見て、畑に“肉探し”に行ったようです。残念ながら見つからなかったようですが、飼育ケースには、肉の代わりにバッタが1匹入っていました。「エサはなんだろう?」「逃がしてあげようよ」など、子どもたちなりに命の大切さを感じ、図鑑を見ながら世話をしたり逃がしてあげたりと、捕まえた後のことも考えるようになってきています。身近な生き物との関わりの中で、自分たちと同じように命があることに気付き、よく考えいろいろなことを学んでいるようです。

## 冬芝の種をまきました!

9月22日、園庭に冬芝の種をまきました。

暑い時期が好きな夏芝は、寒くなると茶色く枯れてしまいます。反対に、冬芝は寒い時期が好きなので、冬の間も園庭を綺麗な緑色に保ってくれます。また、夏芝の上を冬芝が覆うことで、冬の間も寒さから守ってくれる働きをします。

「今日は種まきじいさんだね!」と、花咲かじいさんならぬ種まきじいさんになって、いろいろなところにまいてくれました。中には、5人でくるくる回りながらまいている子たちの姿も。「この方が、いろいろなところにまけるから!」と、楽しくまきながら良い方法を発見したようでした。

もう少しすると、冬芝の芽がでてくると思います。子どもたちも、「まだかな〜?」と心待ちにしているようです。

